



CORPORATE REPORT 2020



MEIKO CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY



経営理念

モノづくりを通して お客様に最高の製品とサービスを提供し 社員と社会に幸福を

企業行動憲章

メイコーグループは、公正な競争を通じて適正な利潤を追求するとともに、広く社会にとって有用な存在であることを目指します。そのためメイコーグループは、次の9原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重し、法令遵守、グローバルルールおよびその精神を遵守するとともに、高い理念を持って、持続可能な社会の創造に貢献するグローバル企業として行動いたします。

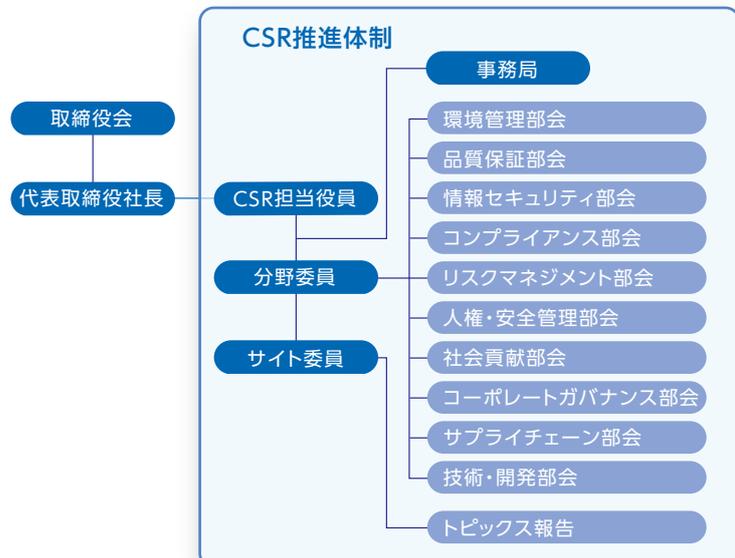
- 1 社会的に有用で信頼性の高い製品・サービスを品質・安全性や顧客情報の保護に十分考慮して開発・提供し、お客様の満足と信頼を獲得いたします。
- 2 創造的な技術開発に挑戦し、新規事業の開拓を行い、豊かな未来に貢献します。
- 3 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行い、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 4 株主はもとより、お客様・投資家・お取引先・従業員など、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正・迅速に開示し、企業活動の透明性を高めます。
- 5 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で活き活きと働きやすい環境を実現します。
- 6 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、地球環境への負荷を軽減し、持続可能な社会づくりに貢献します。
- 7 良き企業市民として、積極的に研究、教育、環境保全、地域社会奉仕などによる社会貢献活動を行い、反社会的勢力および団体とは断固として対決いたします。
- 8 国際的な事業活動においては、グローバルルールやローカルの法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献いたします。
- 9 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。また、社内外の声を常時把握し、実効あるガバナンスの整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

メイコーのCSR宣言

メイコーは、経営理念に基づき、
良き企業市民として社会的責任を果たし、
事業活動を通じて
地球環境と社会の持続的発展に貢献します。

■CSR推進体制

メイコーのCSR推進体制は、工場、営業所などの事業所を単位とする各サイト委員と、会社としての横串機能で分けられた各分野委員で構成されています。これによりグループの全領域をカバーしCSR宣言に基づく活動を展開するとともに、すべてのステークホルダーの皆様への誠実な対応を可能にしています。



■バリューチェーンを通じた メイコーのCSR活動

資材調達、製造を経て製品をお客様にお届けし、研究開発によりさらなる改善を実施する一連の事業活動を通して社会的責任を果たしていくこと。メイコーは、バリューチェーンを通じた一貫性のあるCSR活動により、関係するすべてのステークホルダーから信頼される事業活動に取り組んでまいります。



編集方針

本レポートは、全てのステークホルダーの皆様に向けて、メイコーグループ(当社株式会社メイコーおよびグループ会社)のCSR(企業の社会的責任)の考え方や目標、取り組みについて理解を深めていただくことを目的として発行いたしました。

●対象組織

株式会社メイコーおよびグループ会社

●対象期間

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)
※一部対象期間以前および以降の最新情報も掲載しております。

●参考にしたガイドライン

- ・「環境報告ガイドライン2018年版」(環境省)
- ・GRI「サステナビリティ レポーティング スタンドダード 2016」

●発行時期

2021年3月
※本文中で「メイコー」の表記は株式会社メイコーおよびグループ会社全体を表しております。

■ ISO26000対照表

消費者課題

- お客様に向けて
→P5

人権

- 従業員に向けて
→P13

労働慣行

- 従業員に向けて
→P13

公正な事業慣行

- お取引先様に向けて
→P9
- 株主様・投資家様に向けて
→P16

コミュニティへの参画 および コミュニティの発展

- 地域社会に向けて→P17

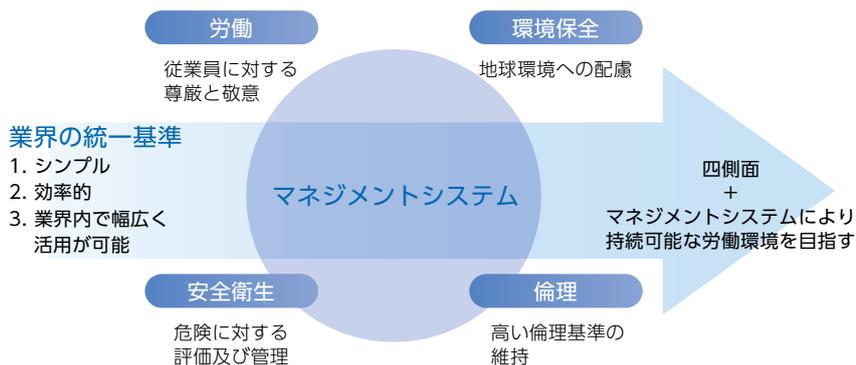
環境

- 環境基本方針→P19
- 環境経営推進体制→P20
- 地球温暖化の防止→P21
- 資源の循環利用→P23
- 生態系の汚染防止→P24
- 製品含有化学物質管理→P25

組織統治

- コーポレートガバナンス→P27
- 内部統制→P28
- コンプライアンス活動→P29
- 情報セキュリティ→31
- リスク管理体制→P32

■ RBA (IBEICC) フレームワーク



INDEX

01 メイコーのCSR

03 トップメッセージ

05 社会性報告

お客様に向けて
お取引先様に向けて
従業員に向けて
株主様・投資家様に向けて
地域社会に向けて

19 環境報告

環境基本方針
環境経営推進体制
地球温暖化の防止
資源の循環利用
生態系の汚染防止
製品含有化学物質管理

27 マネジメント報告

コーポレートガバナンス
内部統制
コンプライアンス活動
情報セキュリティ
リスク管理体制

33 会社概要

トップメッセージ

メイコーは時代とともに変化していく価値への確に対応し、モノづくりを通して最高の製品とサービスを提供することで世界に貢献してまいります。

代表取締役社長 名屋 佑一郎



ごあいさつ

企業は、地域や社会そして地球に密接なつながりを持ち、その一員として存続しています。そして私たちメイコーは、これらに対して果たすべき役割は何かということを常に意識し、社会から受け入れられ信頼される企業になることを目指しています。

私たちの生活は、グローバル化の進展により世界的な人的交流が拡大し、様々な分野で需要が創出され、経済の活性化がもたらされました。その一方で、地球温暖化やプラスチックによる海洋汚染、自然災害、食料問題、人権問題などが世界各地で起こっており、国連でのSDGs(持続可能な開発目標)採択に見られるように、その解決に向けて企業が果たす役割への期待はますます高まっています。こうしたなか、今年に入って新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、大きな影響を与えることとなりました。感染防止のための都市封鎖が実施され、企業活動全般では、工場の操業停止、店舗の封鎖や入場制限などが実施され、需要の急速な縮小が生じ、雇用・賃金などにも影響が及び、これまでの社会生活を見直すことが求められることとなりました。

こうした社会環境の変化は、私たちの事業領域においてもこれまで注力してきた「環境」分野のみならず、「社会」「ガバナンス」のESGを重視した経営の取り組みのより一層の強化を求めています。当社は、経営理念である「モノづくりを通してお客様に最高の製品とサービスを提供し、社員と社会に幸福を」を実現することにより、最先端テクノロジーの進化をサポートするとともに、従業員の働き方、雇用の維持、社会的課題の解決などを通じて、豊かな社会づくりに貢献してまいります。

今後も皆様のかかわりぬご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

Q スマートフォン、車載関連、自動運転といった先端領域における取り組みをお聞かせください。

A 近年、エレクトロニクス機器の存在意義は大きく変化しています。これまでの豊かで快適な生活の実現に加え、省エネや地球環境への貢献、暮らしへの安心・安全の提供なども重要なファクターになってきました。プリント基板にもさまざまなコンセプトが求められています。小さな筐体に多くの機能が詰め込まれたスマートフォンには高密度・高機能な基板、自動車の自動運転や安全走行の実現には高信頼性を追求した基板、電気自動車や太陽光発電など環境配慮型の製品に使用される大電流基板、さらに省エネ、省資源を実現する要素技術なども必要とされています。

メイコーでは、各種最先端製品の開発・提供を通じて、多様化するお客様のニーズに的確にお応えするべく、日々取り組んでいます。

Q 現在のトピックである人工呼吸器の開発など、ベトナムでの新しい取り組みについてお聞かせください。

A コロナ禍にあり、ベトナム政府は人工呼吸器の国産化を進めるため、開発、製造をできる会社を探していました。高価な海外の医療機器を導入せず、輸入製品の1/2、1/3の価格で自国製品を作れば、ビジネスだけでなく、ベトナムへの貢献にもなるわけです。日本の医療機器メーカーと連携をして、人工呼吸器以外にも、いろいろな製品の企画をしています。そのほかにも、工場の自動化設備やドローンなど、さまざまな新規事業に挑戦しています。それは、雇用の創出だけでなく、ベトナムの近代化を進めることになります。さらに、ベトナムで電子関連技術のNo.1技術者集団を作ろうとしています。この新規事業はメイコーのコンセプトに基づき、ベトナム社員の自主性を尊重して取り組んだ結果から生まれました。国の将来を大きく変える可能性のある事業ですから、スタッフも誇りをもって取り組んでいます。こうした取り組みもあって、ハノイ周辺では当社の知名度が次第に上がってきました。これからブランディングも含めて、取り組んでまいります。

ほかには、12月から2月の約3か月間、日本の桜のようなピンク色の花を咲かせる「ヒマラヤザクラ」という木がベトナムにあります。これをベトナム国内で普及させる試みをスタートをしました。街路樹として販売することで、ベトナムの景観の改善にもなります。ドローンを使ってその苗木を山から運び出すことも計画しています。これが実現すれば、苗木だけでも一大ビジネスになります。ベトナムでは日本の会社が何か始めようとした時も自由度が高く、いろいろな挑戦ができます。

Q 女性の活躍、外国人の積極登用についてはいかがでしょうか？

A 当社は、管理職および男性従業員の意識改革や職場全体での働き方改革など、組織風土の変革に積極的に取り組み、性別に関係なく活躍できる環境を提供したいと考えています。管理監督者の役割を担う女性は、年々増加傾向にあります。女性は、結婚して子供が生まれると勤めにくくなる会社もあると聞きますが、当社にそのようなケースはありません。出産を機に1~2年間の休職があっても、復帰をサポートするため企業内保育所「のびっこ」を設け、子育て支援を行っています。

外国人については、当社の主要な生産拠点は中国、ベトナムにあり、平等に活躍の機会が設けられています。企業にとって人材が財産ですから、優秀な人材の採用に国籍は関係ないというのが私の持論です。当社は多様性を尊重し、人種・信条・宗教・国籍・年齢・性別・障がいなどで差別することなく、いろいろな人材が能力を発揮できるよう努めています。

Q 東日本大震災を乗り越え、今回のコロナ禍も克服しようとしています。企業としての危機管理についてお話しください。

A 災害をはじめとする企業リスクは常にあります。当社は、今までの経験の中でリスクヘッジを図っていきます。振り返ると、私たちはありとあらゆる災害を体験してきました。東日本大震災時には石巻工場が津波で被災し、福島工場が福島第一原子力発電所の事故の影響で約2か月間稼働できなくなりました。今回の新型コロナは武漢で発生し、武漢工場は都市封鎖から2か月間操業停止となりました。これだけピンポイントで災害に直撃された企業もないと思っています。このような経験から、リスクヘッジを考えざるを得ません。中国に「卵をひとつのカゴに盛るな」という格言があります。一極に集中してしまうと危険で、できるだけ分散させたほうが良いという考え方です。しかし、それは確かにリスクヘッジにはなりますが、ただ分散すれば良いわけではなく、生産性が落ちるという局面もあります。さまざまな兼ね合いの中で、企業が存続できるリスクヘッジを考えなくてはなりません。今後さらに入念に対策を練り込んでいく必要があります。

Q 最後に将来に向けてさらなる持続的成長への考えをお聞かせください。

A 当社はこれまでエレクトロニクス機器基板におけるニーズの変化を的確にとらえて研究開発を進め、それに応える生産体制とグローバルに供給できる販売網を整えてまいりました。これからも時代とともに変化していく価値的に対応し、モノづくりを通して最高の製品とサービスを提供してまいります。

社会性報告

SOCIAL REPORT

メイコーは様々な国・地域・社会で、さまざまな人々と関わりながら、産業発展に不可欠な電子回路基板を製造・販売しています。私たちは、そのような社会的な存在であることを自覚し、責任を果たしていくとともに、私たちを取り巻く多様なステークホルダーに配慮し、事業活動を展開しています。

お客様に向けて 品質保証への取り組み

2019年度の主な活動実績

- 市場不良「ゼロ」に向けて、重大不良の真因究明による対策及び横展開、又再発・慢性不良の継続的改善
- 未然防止のため、設計段階からの品質改善活動(DR参画)実施
- 工場間バラつき改善のため、内部監査による弱点抽出と改善
- 品質マネジメントシステムの維持・改善のため、取引先への品質管理基準書発行
- 標準委員会活動による全社標準の整備推進

今後の計画

- 市場不良「ゼロ」に向けて、進行性重大不良の真因究明による対策及び横展開の実施
- 設計品質向上のため、DR参画による仕様、課題の対策確認、材料・構造信頼性確認の実施
- 未然防止と工場間バラつき改善のため、品質指標の監視及びデータ分析による傾向対策の実施
- 4M変更・異常処置による品質・納入問題未然防止のため、過去のトラブルからのしくみ改善
- グローバル品質保証体制の再構築

メイコーでは経営理念の実現に向けた「品質方針」を定め、信頼性を向上させることで、お客様の満足度を最高レベルにまで高め、社会に貢献することを目指しています。

品質保証に対する考え方と品質保証組織

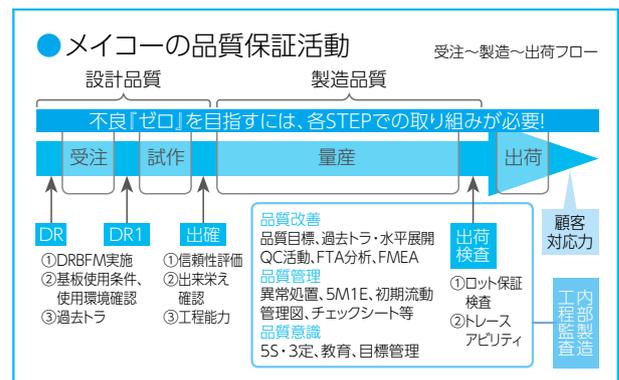
近年、車載部品の不具合によるリコール問題等がニュースになり、企業経営が脅かされるリスクが高まっています。

メイコーの製品も車載を中心に様々な製品に採用いただいております。品質の重要性は益々高まっています。

このリスクに対しては、これまでの発想を変え不良「ゼロ」を目指した活動を進めていかなければなりません。設計品質、製造品質を高めるために、それぞれの段階での仕組みを機能させ、不良の発生を未然に防止する活動を進めています。

顧客ニーズへの品質保証 海外4工場の水平展開

2020年度のグループ経営方針に基づき海外工場および国内工場とともに、顧客ニーズに応える



ことのできる製品の品質保証体制を進めてまいります。グローバル工場を含めた品質保証と管理の強化を目指し顧客の要求に合致したものづくりを実践していきます。

お客様より表彰いただきました

● トヨタ自動車株式会社広瀬工場様より

2019年4月19日に「納入部品不具合ゼロ」の達成により「納入品質優秀賞」をいただきました。



● 電装天際貿易(天津)有限公司様より

2019年5月14日に「品質優秀賞受賞」をいただきました。広州工場は2年連続での受賞となります。



● コンチネンタル社様より

2019年7月25日に、コンチネンタル社の「Supplier of the Year 2018」が発表され、約900社の戦略パートナーの中から、当社が「Supplier Quality Award for 2018」を受賞いたしました。



● 富士ゼロックス様より

2020年1月10日に、2020年度「Premiere Partner」として認定されました。当社は、10年連続での認定となります。



● 株式会社デンソーテン様より

2020年7月15日に納入品質を評価され、「品質優秀賞」をいただきました。



顧客満足度調査

メイコーでは製品、サービスの品質の向上を目的として、お客様の製品、サービスに対する満足度の調査を毎年実施しています。

2019年度は70社様からご回答をいただきました。調査は①製品の品質、②製品の価格、③製品の納期、④サービス、⑤技術対応の5項目についてご回答いただきました。

お客様の声として、多くのお客様に満足をしていただいておりますが、一部のお客様からは厳しいご指摘もいただいております。製品、サービス向上のための指針とし、今後より一層お客様に満足していただけるよう努力してまいります。

ISO9001、IATF16949の認証取得

メイコーでは、グローバルスタンダードであるISO9001およびIATF16949を取得し、品質マネジメントシステムの継続的改善に取り組んでいます。

● ISO9001、IATF16949の認証取得

ISO9001

1997.05.13 (株)メイコー 電子回路基板で認証

2002.05.01 中国広州工場認証

2003.01.27 ISO9001:2000による日本国内統合

01.27 (株)MDS拡大認証(基板設計)

2006.11.29 中国武漢工場認証

2008.02.20 メタルマスク部拡大認証

2010.06.18 ベトナム工場認証

2014.01.15 石巻工場再取得

2015.04.24 タンロン工場認証

IATF16949

2017.08.09 中国広州工場認証

2018.02.14 中国武漢工場認証

2018.09.14 ベトナム工場認証

※国内工場は JET (電気安全環境研究所)、中国工場は TUV (デュフラインランド)、ベトナム工場は BVC (ビュローベリタス) より認証取得しています。



ISO9001 (日本国内)



IATF16949 (広州工場)

現場の声

品質保証部 品質保証一課

三入 元久



品質保証本部の三入と申します。信頼性評価業務を担当しています。

弊社で製造している電子回路基板は自動車に搭載される電子制御部品、スマートフォン、デジタル家電など普通の生活で身近に存在している市販品に幅広い用途で利用されており、主要部品として重要な役割を担っていると認識しています。

そのような市販品に使用される方法や環境を想定した条件に対し、弊社製品がその要求仕様に適用できるかどうかを客観的に判断するために多角的な信頼性評価を実施し、品質特性を推し量ることで設計検証や製品仕上がりの確認を行い、製品保証をしております。

また、製品保証するための信頼性評価以外にも、定期的に各工場の品質を確認するための信頼性評価や、近年電子化が進んでいる車載製品に代表されるような信頼性要求の厳しい製品に対して、設計段階から材料提案する為の信頼性評価を行い、設計品質向上の一端を担っております。

昨今は車載製品の他にも高水準の信頼性を要求される案件が増加しており、その必要性が高まっていることを業務を通じて実感しております。これからもお客様に有益且つ安全な製品提供ができるように信頼性データを活用して品質活動に努めてまいります。

お客様に向けて 基板開発

2019年の主な活動実績

- 高速・高周波基板の試作開発
- 高密度多段ビルドアップ基板の試作開発
- 放熱基板の新規構造、材料および工法の開発

今後の計画

- 高放熱・大電流基板の開発
- パッケージ・モジュール基板の開発
- 多機能車載ビルドアップ基板の開発
- 5G対応基板の開発

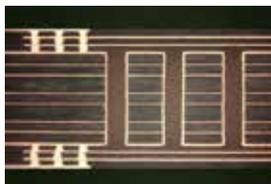
<5Gを支えるプリント配線板技術>

ストレージデバイス



◆高速・大容量

高速大容量メモリーには、高周波材料を用いた高周波ビルドアップ基板が使用されています。
また、プリント配線板の中に部品を内蔵することでメモリー搭載数を増やしさらなる大容量化を実現する部品内蔵基板が使用されています。



高周波ビルドアップ基板 断面



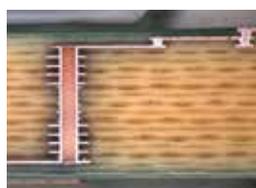
部品内蔵基板 断面

通信インフラ

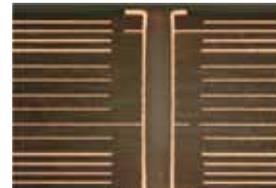


◆高周波

通信インフラには、レーザービアと非貫通ビアを組み合わせた多段ビルドアップ基板が使用されています。
また、高周波材料を組み合わせたハイブリッド基板の開発を行っています。



多段ビルドアップ基板 断面



ハイブリッド基板 断面

パッケージ・モジュール

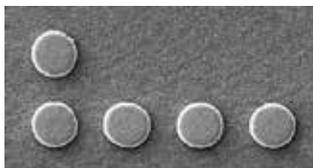


◆微細化・薄型化

通信モジュールには、微細パターンおよび小径ビアランドを用いたビルドアップ基板が使用されています。より小型軽量の機器に対応するためさらなるパターンやビアランドの微細化とともに薄型のパッケージ・モジュール基板の開発を行っています。



微細パターン



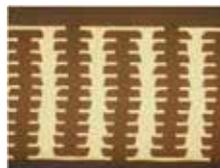
小径ビアランド

スマートフォン

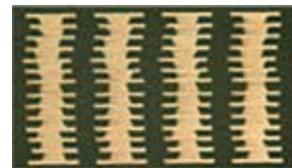


◆高密度化

スマートフォンには、微細加工可能なレーザー技術やめっき技術を組み合わせた全層自由接続のエニージェー基板が使用されています。



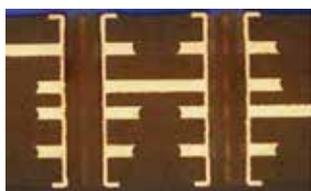
エニージェー基板 断面



<自動車の進化を支えるプリント配線板技術>

◆パワートレイン

ジャンクションボックスや充電器には、高放熱・大電流に対応した厚銅基板が使用されています。さらに特定のスルーホール銅厚を厚くできるスルーホール厚銅基板の開発を行っています。



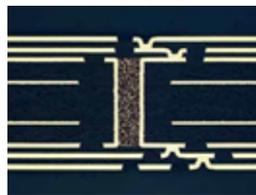
厚銅基板 断面



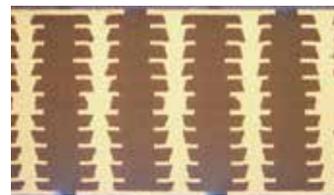
スルーホール厚銅基板 断面

◆情報・通信

ナビゲーションや通信モジュールには、高性能電子部品の配線に対応した配線自由度の高い多段ビルドアップ基板が使用されています。また、より高機能かつ高性能な電子部品には全層自由接続のエニーレイヤー基板が使用されています。



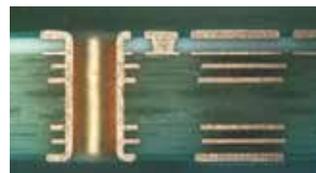
多段ビルドアップ基板 断面



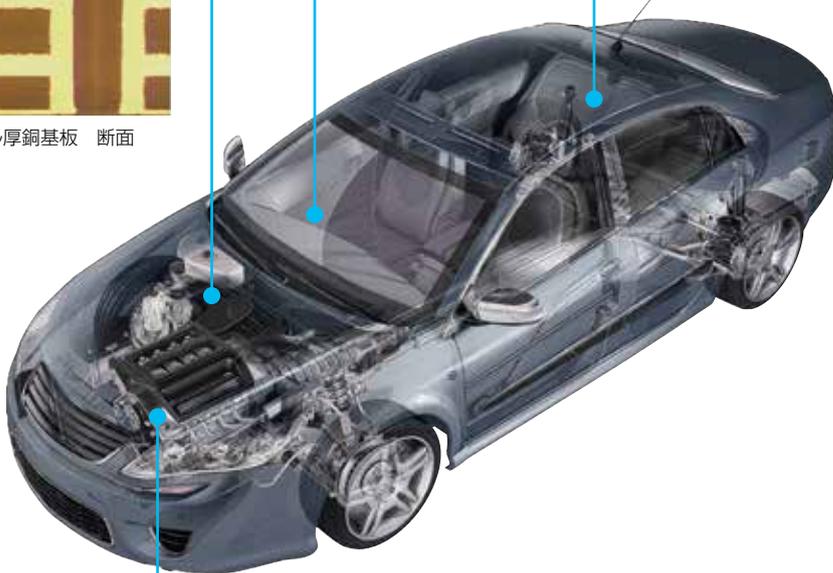
エニーレイヤー基板 断面

◆走行安全

ADAS (先進運転支援システム) 用のセンサーには、高周波材料を用いたハイブリッド基板が使用されています。さらに次世代向け高周波基板の開発を行っています。



ハイブリッド基板 断面

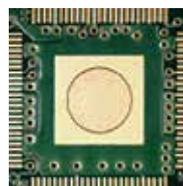


◆ボディ制御

LEDヘッドランプには、放熱絶縁樹脂を用いたメタルベース基板が使用されています。また、ブレーキやパワーステアリングには、発熱部品の放熱経路を確保する銅インレイ基板や小型化を目的とした屈曲するFR4-Flex基板が使用されています。



メタルベース基板



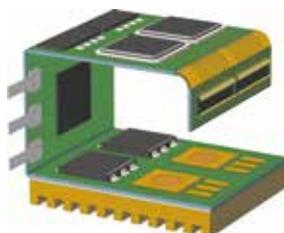
銅インレイ基板



FR4-Flex基板

◆小型化および統合化の提案

さらなる電動化の普及に備え、小型化、大電流、放熱、3D実装の機能を組み合わせた多機能統合パワー基板の開発を行っています。



多機能統合パワー基板 (小型化、大電流、放熱、3D実装)

お取引先様に向けて サプライチェーン

2019年の主な活動実績

- 自然災害・新型肺炎などによる調達リスクを最小化すべく緊急時の対応強化
- 2019年7月にサプライヤーズ・ミーティングを開催しコミュニケーションを深化
- REACH規則等最新版に対応しての環境対応調査実施<SVHC209物質>

今後の計画

- 購買危機管理基準をもとにしたBCP・CSR調査及び購買監査の継続的な実施
- 産地不明メーカーについての継続調査の実施
- サプライチェーンによるGHG排出量の削減を推進

メイコーでは、お取引先各社様にメイコーのCSR方針、環境方針などをご理解いただくための指針として「調達基本方針」を制定し、環境保護・対応に関する取り組みを強化するなど企業間の協力体制のもとCSRの推進に取り組んでいます。

調達基本方針について

メイコーでは、下記「調達基本方針」、「購買取引行動指針」に基づく調達活動の継続を推進しています。

基本的概念として、お取引先様から部材調達に始まり生産活動・物流・販売に至るまでの一貫したサプライチェーンが求められている中、メイコーではお取引先様との相互信頼関係を築き、ともに繁栄できる関係(WIN-WIN)の確立が調達活動での最重要ポイントと考えています。

国内の生産・販売拠点はもとより、海外拠点とのリレーションを含め、①調達基本方針のご理解 ②法令・社会規範の遵守 ③環境保護 ④反社会的勢力の排除 ⑤RBA(旧EICC)行動規範をもとにした、品質、納期、価格、経営のほか事故、災害時の事業継続性など総合的に判断し購入先の選定をおこない、サプライチェーンによるCSRの実践を強く推進します。

● 調達基本方針

1. 購買取引行動指針に基づいたグローバル生産体制に対応した最適な調達活動
2. お取引先様とのコミュニケーション・連携を強化した円滑・公正・適正な調達活動
3. 環境対応(化学物質に対する対応/グリーン調達)の強化
4. RBAに基づく紛争鉱物の排除、若年労働者雇用の調査を推進

お取引様・協力会社様へのお願い

メイコーでは、調達基本方針である「環境対応」の側面より800社以上のお取引先様・協力会社様と地球環境に配慮した下記取り組み事項に関してのご理解・ご協力のお願いとお約束を推進しています。社内生産活動における「温室効果ガス排出抑制」、「廃棄物削減」および、「特定化学物質の管理」はもちろんですが環境に配慮した調達活動実現のため、お取引先様・協力会社様へもグリーン調達の推進や提案をいただくとともに、物流や営業活動に関しても地球環境に配慮した活動をお願いしています。2019年の具体的な活動実績としては、自然災害・疫病などによる調達リスクを最小化する取り組み強化、BRA標準フォーマットによる紛争鉱物調査、若年労働者雇用の調査REACH規則等最新版に対応した環境対応調査などを実施しています。

● お取引様・協力会社様へのお願い

1. グリーン調達の推進・グリーン調達基準の遵守・「エコ商品」の情報提供
2. アイドリングストップの協力
3. 廃棄物の減量
4. 緊急事態の連絡に関する協力

● 購買取引行動指針【一部抜粋】

1. 購買は利益創出部門であることを認識し、常に積極的に事業経営に貢献すること。
2. 常に礼儀を尊び、誠実を旨として節度を保ち、取引先から社会人として尊敬と信頼を得るよう努めること。
3. 関連法規を遵守し、公明正大に業務を推進すること。
4. 資材等の選定にあたりグリーン調達の趣旨を十分理解し、環境保全活動を積極的に推進すること。
5. 取引先及び取引見込先との個人的利害関係を持たないこと。

●サプライヤーズ・ミーティングの開催

メイコーでは、サプライチェーン拡充ため、定期的にサプライヤーズ・ミーティングを開催し、経営方針、購買方針、メイコーのCSRの取り組みをご理解頂くとともに、交流を図り、双方向のコミュニケーションに努めています。2019年度は5月に中国広州市で開催し、QCDに特に優れたお取引先様を表彰させて頂きました。7月にはベトナム第三工場竣工式及び事業概要説明会を開催し、各国から63社、123名様のお取引様が出席されました。



購買・調達活動への取り組み

内部統制とコンプライアンス

メイコーでは、購買・調達活動に対し以下の項目を遵守し、お取引先様との円滑な業務を継続しています。日本における「下請代金支払遅延等防止法」、グローバル調達においては、関税法、各国・地域における法令、社会規範の遵守、社内教育やコンプライアンスの確認を実施し、お取引先様との適正かつ持続的な取引を強化し推進しています。

ESG経営に基づく調達方針

メイコーの経営理念に基づき、メイコーが目指す中長期的なビジョンから定められる中長期的な事業領域において関係する社会課題をE・S・Gフレームで整理し、メイコーとステークホルダーにとって重要と考えられるSDGsにおいて、メイコーの強みを生かし解決することを事業活動として取り組んでいきます。

1. 購買・調達活動に関わる法令を遵守し、お取引先様との公正かつ公平な業務を遂行する。
2. 購買・調達活動を通じて知り得たお取引先様の情報を守秘し、機密情報・個人情報などの流出を防止する情報セキュリティ体制を強化する。
3. お取引先様からの「接待・贈答」は社会通念の範囲内とし、個人的利益にあたる授受を禁止する。
4. 反社会的勢力・紛争鉱物調達・若年者労働の排除を遂行する。

環境対応(グリーン調達)

メイコーでは「環境に対する基準」に基づき、お取引先様との環境対応に配慮した購買・調達活動を推進しています。

1. 法規制 (RoHS指令・ELV指令・REACH規則) や環境負荷物質の含有を確認し、適合品の調達を推進することで製品環境品質の維持・向上に努めています。
 - ① RoHS指令 : EUによる電子・電気機器における特定有害物質の使用制限
 - ② ELV指令 : EUで施行された、廃棄自動車の環境に与える負荷を低減するための指令
 - ③ REACH規則 : EUにおける人の健康や環境の保護のための法律
 - ④ JIG (1-R) : 電気電子機器製品に関する含有化学物質情報の開示に関するガイドラインの法規制物質
 - ⑤ 顧客基準
2. 「環境保護に関する覚書」「環境負荷化学物質に関する不使用保証書」の締結を推進し、お取引先様との環境保護対応を推進しています。締結に関しては、外注加工メーカー様を含め主要お取引先様と進めています。
3. 産業廃棄物の排出削減に努め、資源の再利用など有価物としての取り組み対応をお取引先様と推進しています。

お取引先様の声



旭化成株式会社
基板材料事業部 事業部長
富田 宏朗

平素、弊社ドライフィルムレジストをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

近年は世界中で持続可能な社会、サステナブルな人と地球の発展への関心が高まっており、弊社は『世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します』という理念のもとで、積極的なCSR活動を行っております。特にGHGの排出削減は貴社同様に非常に重要な課題と認識しており、ドライフィルムレジスト生産時の廃棄物削減、省エネ、リサイクル可能な梱包資材の活用に取り組んでおります。性能、品質に関してもお客様の収率向上に貢献し、かつ環境負荷が少ない製品開発に注力しております。

環境問題をはじめとする社会問題は企業が発展していく上で今後も避けて通ることができない問題です。弊社はこれらの問題に対して貴社とともに協力して、真剣に取り組み、お互いの企業価値向上、そして事業発展に貢献させていただきたく存じます。

従業員に向けて 働きやすい職場づくり

2019年度の主な活動実績

- 高齢者の活性化推進
- グローバル人材の配置と人材交流
- 治療と仕事の両立支援
- 女性が働きやすい体制の推進

今後の計画

- 変化する労働環境への対応
- 安全で快適な職場環境・健康づくりの推進

メイコーでは「企業の最大の財産は人」との考え方のもと、すべての社員にとって安全・安心・清潔で、多様性を尊重する、そして社員が成長できる「働きがいのある職場づくり」を推進します。

多様性の尊重

メイコーでは、人権を尊重し、人種・信条・宗教・国籍・年齢・性別・障がいなどで差別することなく、多様な人材が能力を発揮できるよう、公正な採用と評価ならびに処遇することに努めています。

高齢者の活性化推進

定年退職後の嘱託再雇用者の活性化を図るため、2019年度に「仕事基準」再雇用制度を導入しました。嘱託再雇用者を重要な労働力として位置づけ、モチベーションを維持・向上させる制度です。年齢だけによる賃金格差を是正し、定年後の職務内容に応じた処遇水準を設定することにより、メリハリの効いた制度としています。

治療と仕事の両立支援

疾病を抱え治療をしながら勤務する従業員を支援するため、当社では私傷病休暇制度の充実を図るとともに、時差勤務制度やフレックスタイム制度などフレキシブルな勤務制度を整備しております。

グローバル人材の配置と人材交流

日本採用の海外出身者は、中国とベトナムを中心に22名在籍しており(帰化者を除く)、海外で活躍する日本人スタッフは57名おります。また、2003年度より外国人研修・技能実習制度を活用した海外現地法人幹部候補生の育成を行なっておりますが、現在ベトナム人材47名が福島工場及び山形工場で実習を行っております。その他、企業内転勤制度を活用した中国広州工場及び武漢工場の従業員5名が、本社で勤務しております。国内外に 関わらず人事異動・人材交流により、グローバル人材の育成、さらなる人材活性化を推進しています。

(2020年8月1日現在)

グローバル社員の声

私は2018年に中途採用で入社致しました。

入社後、国内営業部に配属され、車載関係の顧客を営業担当しております。

顧客のニーズに応じて、要素開発や開発初期段階からの開発営業活動から、品質監査対応、量産品の納期対応まで様々な業務に携わっています。車載顧客ということもあり、品質や仕様、納期面での非常に厳しい要求を受けますが、その顧客要求に対応するため関連部署と連携し、新技術や新しいアイデアなどを提案することが、日々の勉強になっております。

台湾出身ということもあり、日本と中華圏の言葉や文化の違いを埋められるよう、架け橋として会社に貢献できればと考えております。



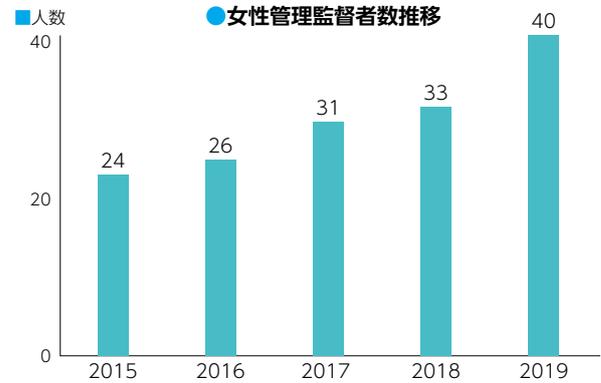
第二営業部
陳 兪君

女性活躍推進

メイコーの過去5年間の女性社員の雇用比率は17%～20%で推移しており、2019年度末時点の女性比率は19.5%でした。一方で、管理監督者の役割を担う女性は、年々増加しています。また、管理職および男性従業員の意識改革や、職場全体での働き方改革といった組織風土の変革にも取り組んでいます。



・2019年度末時点の女性比率は、19.5%
(グループ会社を除く)



・主任相当職以上の管理監督者は年々増加
(グループ会社を除く)

育児休業・時短勤務制度

女性従業員に対しては産休・育休からの復帰にあわせた短時間勤務制度の推進なども積極的におこなっており、2019年度中の育児休業取得者は6名、職場復帰者は1名、短時間勤務制度利用者は15名となりました(グループ会社を除く)。

女性が働きやすい体制の推進

社員の福利厚生への拡充とESG経営の一環として、2019年度に推進してきた企業内保育所が完成し、2020年4月に「メイコー保育所のびっこ」として開設しました。

育休・時短制度 利用者の声

先端基板センター 製品技術課

田川 清



2017年5月に娘を出産し、育児休暇を取得して翌年4月に職場復帰しました。しかしながら、実際に定時に帰宅してから幼児の面倒を一人で見るのは、時間的に非常に厳しい状況でした。そこで上司に相談して、現在は時差勤務を利用させていただいています。

会社には短時間勤務制度がありますが、私の場合は時差勤務を認めていただいたことにより、通常の所定時間での勤務が可能となっています。家庭内でも、朝の保育園送りは夫に担当してもらおうなど、作業分担をしています。

復帰後大きく変化したのは、勤務に対する考え方です。決まった時間内でどの業務を優先して漏れがないように進めるべきか、常に考えるようになりました。まだまだ効率的に働けているとは言えず、突発的な休みも多いのですが、部署内および周囲の方々には、業務の各面で配慮いただき、温かく見守っていただいています。



各種教育制度の導入

メイコーでは、社員一人ひとりの持つ潜在能力を引き出すとともに、経営理念の実現を担う人材を中長期的に確保するために、新入社員から中堅社員、幹部社員に至るまでの階層別研修や、職能や職種に応じた分野別研修をおこなっています。特に次世代のリーダー教育は最重要課題と位置づけ、現在のリーダーから次世代へ伝承すべき共通の独自価値を抽出し、育成プログラムへ反映させるユニークな研究を推進しています。

また、社員の自発的な能力開発の支援として、技能検定資格を促す資格認定制度や通信教育の費用補助のほか、外部講師による基板スクールの実施やTOEIC受験費用の全面的補助などをおこなっています。

さらに、2019年度より、ますます重要性が高まる海外現地法人の最前線でグローバルに活躍できる社員を育成するために、「新入社員ベトナム研修」を実施しています。

その他、海外工場人材育成のために実施している外国人研修・技能実習制度の修了者は、300名を超えており、帰国後、工場長はじめ工場幹部として活躍しています。

安全衛生に関する取り組み

メイコーでは、安全衛生方針に基づき、すべての職場における不安全状態の撲滅と作業環境の向上、そして全従業員の健康増進を目標に安全衛生活動を推進しています。労働災害の防止はもちろんのこと、より効果的に問題を発見するために、産業医や労働衛生コンサルタントなど有識者による職場巡視や、工場間での安全衛生委員による相互パトロールなども実施しています。さらには、リスクアセスメントによるリスクの見積もりとそれに基づく労働災害の予防措置をおこない、安全衛生管理の向上に努めています。

●階層別研修

新入社員

- ・ビジネスシミュレーション研修
- ・製造・営業実習と問題解決の実践

中堅社員

- ・MBA (Meiko Board Academy)
- ・次世代マネジメント層の育成

管理職

- ・問題解決力向上
- ・MAPS (Management Academy for Problem Solving)

部門長

- ・社長塾
- ・さらなる成果創出のためにメイコーDNAの実践者となる人材を育成

●分野別研修

技術者教育

- ・メイコー基板スクール
- ・新入社員・中途入社社員・中核技術者の技術力を向上

グローバル教育

- ・TOEIC社内受験の定期化とインセンティブ制度
- ・英語選抜研修
- ・中国語・ベトナム語研修
- ・新入社員ベトナム研修
- ・海外現地法人従業員等の外国人技能実習

●自己啓発

通信教育講座

- ・語学系講座を修了した場合は受講料の80%を補助

●労働安全衛生方針

メイコーグループでは、「企業の最大の財産は人」との考えのもと、すべての従業員が心身ともに安全で安心して働き、個々人の能力を十分に発揮できる職場づくりを目指します

1. 労働安全衛生の関連法規制および社内規程を遵守し、すべての職場における不安全状態の撲滅を図ります。
2. 職場におけるリスクアセスメントを実施し、目標を定め労働環境の改善および労働災害リスクの低減に継続的に取り組みます。
3. 従業員一人ひとりに労働安全衛生活動を周知させ、安全衛生意識の向上を図ります。
4. 従業員の心と体の健康の保持・増進に対し積極的な支援を図ります。

TOPICS

ライフイベントマップ

メイコーでは従業員の多様な価値観やライフイベントに合わせて柔軟に働く事ができる環境づくりを進めています。

	結婚	妊娠・出産	育児	介護	退職
働き方・休暇・休業制度	結婚休暇	産前・産後休暇 配偶者出産の特別休暇 健康検査の特別休暇 (妊娠中or出産後1年未満)	〈1歳まで〉 育児時間 〈1歳(状況により2歳)まで〉 育児休業 〈小学校3年生まで〉 時間外労働の制限 深夜業の制限 育児短時間勤務制度 子供の看護休暇 (年5日/1人)	〈93日まで〉 時間外労働の制限 深夜業の制限 所定外労働の免除 介護休業(93日まで) 介護休暇(年5日/1人)	定年再雇用制度

株主様・投資家様に向けて IR活動の充実

2019年の主な活動実績

- 機関投資家様向け決算説明会、アナリストミーティング、スモールミーティング、投資家様訪問を実施
- 海外の投資家様に向けた各種IRツールの英語化

今後の計画

- 各種説明会を継続実施
- さらなるグローバル化、投資家様に有用な情報の発信

メイコーは、企業行動規範において、「企業価値の創造に向け、健全かつ透明性のある企業活動・企業経営に努め、株主や投資家の皆様に信頼される企業であり続けることを目指します」と定めています。この規範に基づき、各種法令を遵守しながら健全で公正な企業活動を積極的におこなうことで企業価値を最大にすべく努めています。

適時・適切な情報の開示

株主・投資家の皆様の投資判断に影響を与えると思われる重要な情報は、適時開示規則に基づき適切に開示するとともに、それ以外の重要な情報も迅速・適切かつ公平に開示をおこない、経営の透明性を向上させています。

海外の投資家様に向けて

海外の投資家様に当社の事業活動に理解を深めていただけるよう、株主総会招集ご通知およびプレゼン資料、株主通信、決算説明会資料の英語化をおこなってIRのグローバル化を進めています。

株主通信

メイコーへの理解をより深めていただくために、株主の皆様への情報提供として年2回「株主通信（MEIKO REPORT）」をお届けしています。



MEIKO REPORT

地域社会に向けて 社会貢献

2019年の主な活動実績

- 新型コロナの対策支援活動を実施
- 各サイトにおいて、地域課題に沿った社会貢献活動を実施

今後の計画

- 多くの従業員が自発的に参加できる枠組みの構築

メイコーでは、地域社会との密接な関係を築くために、本社をはじめとするグループ各社での社会貢献活動を積極的に推進しています。今後も、各自治体の主催する環境美化活動や各種イベントに積極的に参画するとともに、良き企業市民として各地域社会に密着した社会貢献活動を推進することで、社会の一員としての責任を継続的に果たしてまいります。

中国 武漢工場

- 武漢市漢南区赤十字社にマスク100,000枚を支援
- 地域の清掃活動

中国 広州工場

- 地域の小学校2校に教育用品を寄付
- 地域敬老活動への参加
- 地域献血活動へ参加

ベトナム工場

- ブン村の神社に絵を描き、壁の修理工事に協賛
- フンサー村の子供に中春プレゼント寄贈
- フンサー村の貧しい世帯へのお正月のケーキを寄付
- ソンタイ村とタクタット県の視覚障害者支援協会にケーキを寄付
- ソンタイ町の障害児救援センターにケーキを寄付
- ヴァンフック県ソンローイ村にマスク10,000枚を支援

ベトナム タンロン工場

- 2019年度からタンロン工業団地TLIPの社会責任委員会に参加しメンバーとして地域貢献活動を実施
- 近隣地域4村の貧困世帯への贈答品
- 地域貧困世帯への贈答品
- ボン・ラー村の小学校への教育機材の支援
- ダイ・マック村の小学校へ市水供給する配管の設置工事の支援
- 工業団地と近い4村の成績優秀者120名に奨学金支援

山形工場

- 谷地どんが祭り協賛
- かほくほくほく祭り協賛
- 地元高等学校の工場見学・インターンシップの受け入れ
- 献血活動への参加(2月 11名)
- 近隣小学校へ写真ニュース掲示板を寄贈

福島工場

- 広野町サマーフェスティバルに協賛
- 工業団地内の夏祭りに参加
- 献血活動への参加
- インターシップの受け入れ

石巻工場

- 石巻エコフォーラムに参加し、地域清掃活動を実施

本社

- 綾瀬市にマスク100,000枚を寄贈
- あやせ環境ネットワーク協賛
- あやせ産業まつり(商工フェア・農業収穫祭)協賛
- 綾瀬市社会福祉協議会「ふれあいの家」運営
- 綾瀬市商工会花火大会協賛
- 綾瀬市少年野球連盟協賛(春季大会/メイコーカップ)
- 神奈川県障害者技能競技大会アビリンピック2019協賛
- 「交通事故防止キャンペーン」ポスターを近隣小中学校へ寄贈

Action 1

災害支援活動 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策支援

新型コロナ対策の支援物資として、各拠点でマスクを寄贈を行いました。武漢工場は武漢市漢南区赤十字社に100,000枚、本社は綾瀬市に広州工場で製造したマスクを100,000枚、ベトナム タクタット工場は、近隣村落の住民に10,000枚の支援を行いました。



Action
2

青少年教育支援活動

ベトナムタンロン工場では近隣地域の4村の学生120名に奨学金を支援しています。ベトナム タクタット工場、広州工場では地域の小学校に教育機材の寄付をしています。



Action
3

社会福祉活動

ベトナムでは、経済的に恵まれない家庭や視覚障害者協会、障害児協会などへのお正月のケーキなどを提供しています。広州工場では地域の敬老活動に支援をしています。



Action
4

地域貢献・環境保護活動

ベトナム タンロン工場では小学校へ市水を供給する配管の設置工事や、タクタット工場では神社の壁の修復工事に支援をしています。また、当社グループでは献血活動に50名が参加いたしました。



環境報告

ENVIRONMENT REPORT

メイコーでは、事業活動にともなう環境負荷を可能な限り低減することが、持続可能な社会に対し貢献することであり、企業としての使命・責任であると認識し、活動しています。

2019年度の主な活動実績

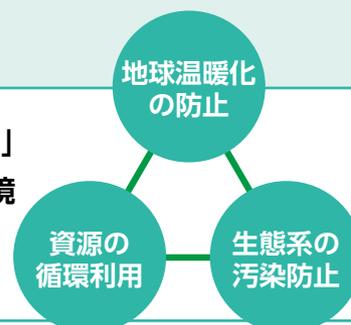
- CO₂排出量は前年度実績より少し増加。
- 社有車のエコカーの導入。
- 再資源化率99%以上を維持。(国内のみ)
- 廃棄物交換システムなどを活用し、不用品の再利用化。
- SVHC追加物質の把握と仕入先への調査を実施。

今後の計画

- エネルギー原単位を1%以上改善。
- 蛍光灯のLEDランプへの交換推進。
- 再資源化率100%を目指す。
- RoHS II 指令の順守と仕入れ先への調査を徹底。

環境基本方針

当社は「かけがえのない地球」を「きれいな水と大気と緑の環境」の状態の後世に残すことを最大の責務と考え、事業活動と地球環境の調和を図り、「環境に優しい事業活動」を推進する。



●メイコー環境行動指針

当社は、電子回路基板、メタルマスク及び電子機器の設計、開発及び製造の事業活動を行っており、その事業活動に対して地球温暖化の防止、資源の循環利用、生態系の汚染防止など、環境負荷を軽減して環境保全、環境保護することが最重要課題であると考えている。

私たちは、環境基本方針に則り、事業活動が環境に与える影響を十分に把握し、汚染の未然防止と環境負荷の低減に努め、次のとおり行動する。

1. 環境保全活動推進のための組織を整備し、環境マネジメントシステムの構築、見直しを行い、環境影響に対し適切な運営を行い、継続的に改善する。
2. 省資源、省エネ、廃棄物の削減、及びリサイクルの推進を図り、環境保全に貢献する。
3. 製品含有化学物質を適正に管理し、製品に有害化学物質が含まれないようにする。
4. 生産工程における化学物質の適正な管理を実施し、使用量の削減と環境負荷の低減に努める。
5. 環境汚染物質を的確に把握し、汚染予防を推進する。
6. 環境関連の法律、規則、条令及びその他の要求事項を遵守する。
7. 環境目的、目標を定め環境保全、環境保護活動の実施と見直しをする。
8. 全従業員が高い意識を持って環境保全、環境保護に取り組めるよう、教育、指導を行う。
9. この環境方針は文書化し、全従業員に周知すると共に、一般にも公開する。

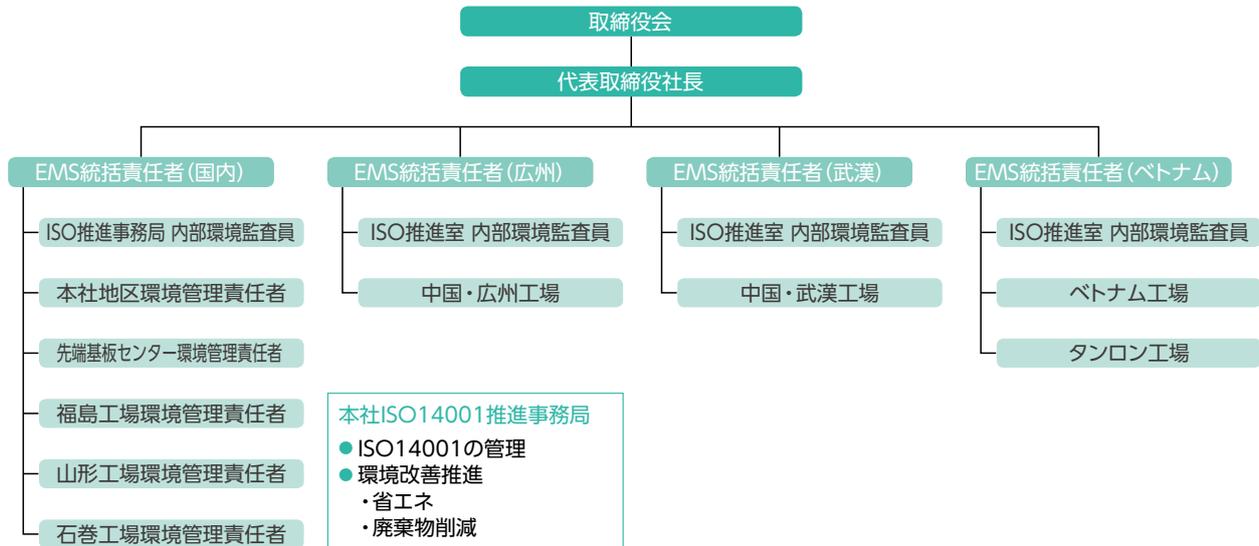
2017年10月19日

代表取締役社長 名屋 佑一郎

環境経営推進体制

「環境基本方針」を実現すべくISO環境マネジメントシステムを構築し、国内外の各工場に環境を統括するEMS（環境マネジメントシステム）責任者を配置しています。また全社横断の省エネ委員会を開催しCO₂削減、ゼロエミッション活動等により環境保全に努めております。

●環境経営推進体制



EMS統括責任者
品質保証本部 本部長
植木 慎二

当社環境方針に基づき、省資源、省エネ、破棄物の削減及びリサイクルの推進、製品含有化学物質の適正管理、生産工程における化学物質の適正管理による使用量の削減と環境負荷の低減を日々進めております。昨今の気候変動や環境破壊は、企業活動にも影響を及ぼしかねない状態になっており、世界的なESG投資の拡大やSDGs（持続可能な開発目標）の急速な普及によって、企業の姿勢も厳しく問われるようになってきています。

当社も「ESG経営の推進」をグループ方針に掲げ、活動の推進、破棄物の削減やリサイクルの推進のための投資を図っております。

また、環境法令順守を維持継続させるため、環境法令の解説版を作成し国内工場及び関連事業所における自己監視ができるようにしております。

今後さらに地球環境保護のために環境リスクの低減を図り、環境に優しいものづくりを実現して、社会に貢献してまいります。

ISO14001認証取得

環境経営に資するためにISO14001を重要な規格と位置づけ、2000年度より取り組みを開始し、国内・海外工場で継続的な取り組みを実施しています。

●ISO14001の認証取得状況

2001. 03.27	本社および先端基板センター
09.25	山形工場
2003. 04.17	福島工場拡大取得
04.30	中国・広州工場取得
2005. 04.22	国内3工場統合
04.22	MDS拡大取得
2006. 04.28	メタルマスク部拡大取得
2007. 02.20	中国・武漢工場取得
2009. 03.26	研究開発センター拡大取得
03.26	大和テクノロジーセンター拡大取得
2010. 06.18	ベトナム・タクタット工場取得
2014. 01.15	石巻工場再取得
2015. 04.24	ベトナム・タンロン工場取得
2017. 01.27	全工場 ISO14001・2015年度版移行完了

※国内はJET（電気安全環境研究所）、中国はTUV（テュフラインランド）、ベトナムはBVC（ビューローベリタス）より認証取得しています。

環境関連法令遵守

環境意識の高まりとともに、環境関係の法令および各地域での条例も改正されておりますが、それらの改正などに確実に対応し遵守していくことが地域社会の環境保全に対するメイコーとしての貢献につながると考えています。メイコーではISO14001に基づき、メイコー事業活動に関連する法令および各拠点地域の条例を特定し、かつ改廃を監視することにより、法令・条例を確実に遵守する活動を展開しています。

環境目標計画の推進

メイコーでは企業活動による環境影響評価を実施し、著しい環境側面としてエネルギーは電気・重油・ガス・ガソリン、資源は使用原材料・水・紙、廃棄物は廃プラスチック・汚泥・廃酸・廃アルカリなどを抽出しています。2019年度はベンチマークおよび目標を再設定し、活動を推進してきました。引き続き、生産効率の改善、さらなる省エネへの取り組みを実施し、原単位での着実な削減を目指します。

地球温暖化の防止

メイコーでは、かけがえのない地球に対する極めて大きな脅威として、温室効果ガス問題を認識しています。この取り組みは、エネルギー起源の二酸化炭素排出量を削減するための省エネ活動になります。

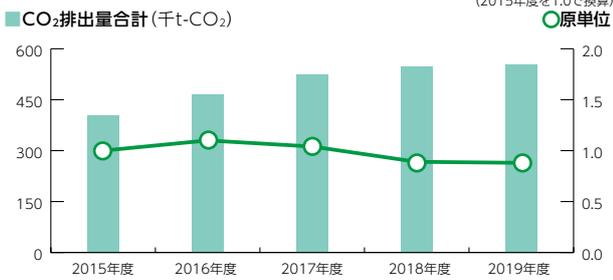
国内では法令の規定もあり、排出量削減の年度計画・中長期計画を策定、推進していますが、海外工場においても同様な取り組みを展開して、グローバルな地球温暖化防止活動を推進しています。

2019年度は、工場部門と事務部門の省エネ改善活動を実施しました。個別の効果が得られたものもありますが、全体としては生産量変動の影響で目標とする原単位の低減はできませんでした。今後は、それを挽回すべく目標達成のための取り組みを実施してまいります。

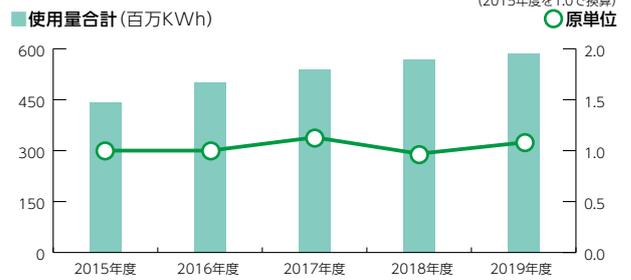


省エネ委員会

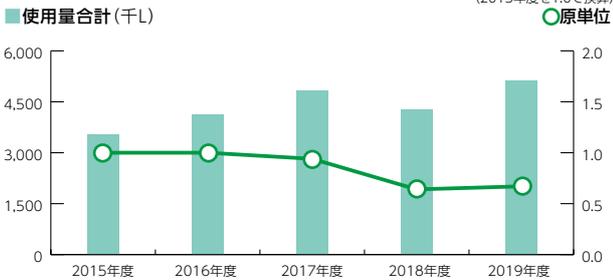
●CO₂排出量推移



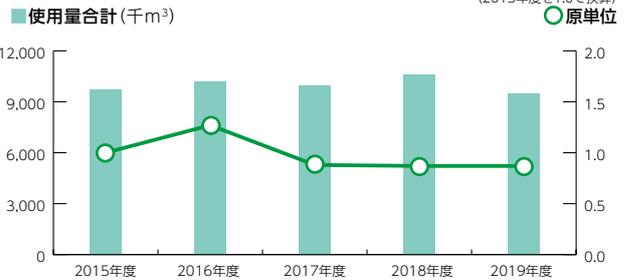
●電力使用量推移



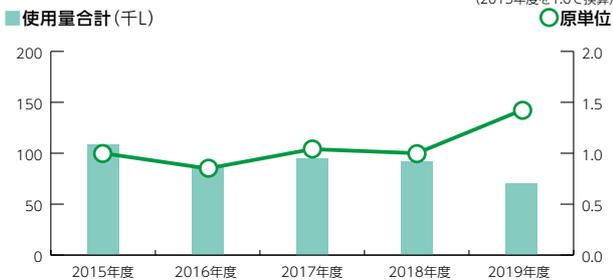
●燃料油使用量推移



●天然ガス使用量推移



●ガソリン使用量推移



※2012年度よりベトナム工場、2013年度より石巻工場、2016年度よりタンロン工場の実績を追加しています。

※最近は、生産量増加に伴い、エネルギー使用量も増加しているが、原単位はほぼ横ばいで推移しています。

省エネ改善活動事例

先端基板センター改善事例

先端基板センターでは、積層プレス機やクリーンルームの加湿用熱源として、蒸気ボイラー(A重油)を使用していましたが、2020年1月よりガスボイラーに切り替えました。

燃料を重油から都市ガスでの運用に変えたことにより、Nox(窒素酸化物)の発生量も少なくなりCO₂の排出量を抑えることが出来ており、環境負荷低減に貢献しています。



効果 1年間のCO₂削減量**75t** (従来より**15%**低減)

資源の循環利用

水の使用状況

電子回路基板の製造には、基板洗浄の工程で大量の水を使用します。メイコーはこれまで設備毎の水使用管理、RO水*の利用などで削減に取り組んできました。

引き続き、各工程で品質に影響を及ぼさない必要最低限の水の使用、またRO濃縮水の再利用システムを導入し、排水の再利用に取り組み、削減効果を発揮しています。

*RO水：逆浸透膜 (Reverse Osmosis) を利用し、不純物を取り除いた水であり、洗浄工程で使用します。

紙の使用状況

森林資源の保全に貢献できるよう、全社を挙げて資料の電子化、不要コピーの廃止、電子承認システムの導入等で用紙の削減に取り組んでいます。

*2018年度より、ベトナム工場、タンロン工場の実績を追加しています。

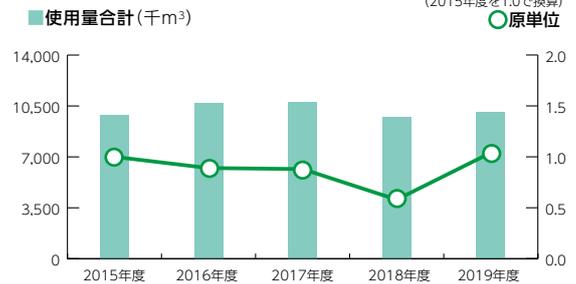
廃棄物の削減と再資源化

廃棄物削減については3R(リユース、リデュース、リサイクル)を念頭に置き活動しています。2018年度に引き続き、廃棄物の有価物化など廃棄物の再資源化に積極的に取り組んでいます。なお、排出された廃棄物が埋立処分以外の用途に使用される再資源化率は、2019年度国内工場の実績で99%以上となっています。

*再資源化には熱回収も含まれています。

*中国工場(広州、武漢)、ベトナム工場(ベトナム、タンロン)は算定から除外しています。

● 用水使用量推移



● コピー用紙使用量推移



廃棄物削減活動取り組み事例

自社内での資源回収

工場が発生する産業廃棄物の中には、自社内にプラントや設備を設置して資源を回収しているものがあります。

1. 金めっき廃液から、金を回収
2. ソフトエッチング廃液から、銅を回収
3. エッチング廃液から、銅を炭酸銅・硫酸銅に生成して回収

資源を循環利用することにより、天然資源の枯渇防止となり、地球環境保護に貢献しています。



写真：広州工場のソフトエッチング廃液処理装置

生態系の汚染防止

環境負荷低減対応

メイコーでは、工場における事業活動の地域環境へ与える大きさを認識し、その負荷を軽減することがわれわれの責務であると考えています。具体的には公害防止法令および地域との協定基準を遵守し、「PRTR法」で把握された排出総量を削減すべく活動を行っています。

排出負荷削減活動

地域環境の維持に貢献するため、定期的に排水水質、大気放出ガスの状態などの測定を実施し、管理しています。メイコー各工場の主な排出物質実績は下記の通りです。

すべて基準値以下を維持しております。

事業所名	水質					大気			
		pH	BOD	COD	SS	対象設備	対象物質	ばいじん濃度	窒素酸化物濃度 (NOx)
先端基板センター	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	7.21	13.6	15.4	-		実績	0.0023	62
	基準値	5.7~8.6	25	25	70		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
福島工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	6.805	8.6	8.0	1.1		実績	0.005	57
	基準値	5.8~8.6	25	25	70		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
山形工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	7.1	7.4	11.6	2.2		実績	0.005	48
	基準値	5.8~8.6	25	160	60		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
石巻工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	6.83	54.16	42.5	4.3		実績	0.01	64
	基準値	5.8~8.6	160(120)	160(120)	60(50)		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
広州工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	ボイラー	測定単位	mg/m ³ N	mg/m ³ N
	実績	7.65	8.2	85.7	22.6		実績	17.57	132.21
	基準値(省)	6~9	300	500	400		基準値	120	150
武漢工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	mg/m ³ N	mg/m ³ N
	実績	7.53	7.0	26.6	18.5		実績	17.2	17
	基準値(国)	6~9	20	80	50		基準値	50	400
ベトナム工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	ボイラー	測定単位	mg/m ³ N	mg/m ³ N
	実績	7.26	8.3	17.5	6.3		実績	42.8	63.20
	基準値	6~9	30	75	50		基準値	200	850
タンロン工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	ボイラー	測定単位	mg/m ³ N	mg/m ³ N
	実績	7.83	9.1	26.2	6.7		実績	41.74	64.35
	基準値	6~9	30	48.6	50		基準値	200	850

※水質測定項目は、水質汚濁防止法生活環境項目の一部開示となっています。

※水質測定値は平均値となっています。

環境負荷表

メイコーとして環境負荷の全体像を把握する取り組みをおこなっています。2019年度実績を下表に示します。今後はインプットのエネルギー、水、材料、化学薬品、アウトプットの大気放出、排水、廃棄物・有価物、リサイクルに区分した取り組みをより正確に把握してまいります。

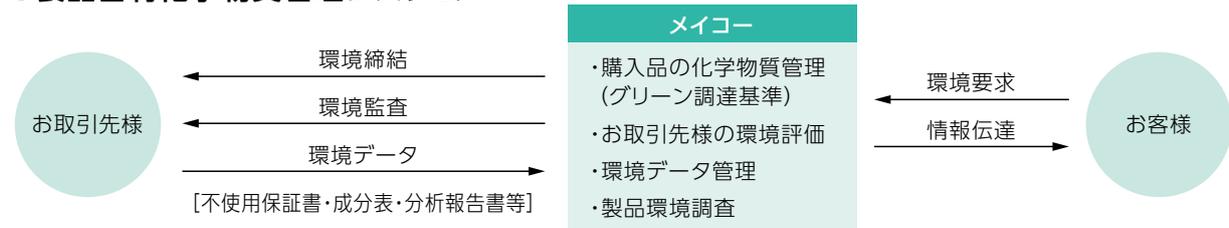
事業活動と環境負荷									
対象範囲：本社および主要8工場 対象期間：2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日) 事業内容：電子回路基板の製造									
In put	エネルギー投入量			資源		化学物質			
	電気	(千kwh)	586,459	水	(km ³)	10,063	PRTR対象物	(t)	375
	重油	(kℓ)	4,935	コピー用紙	(千枚)	15,196			
	天然ガス	(km ³)	9,501						
	軽油	(kℓ)	3						
	ガソリン	(kℓ)	70						
Out put	大気系			水域系		化学物質			
	CO ₂ 排出量	(kt)	554	PRTR物質排出量	(t)	0.27	廃棄物発生	(t)	3,925
	NOX排出量	(t)	139				PRTR物質排出量	(t)	20
	ばいじん排出量	(t)	9.5						
	PRTR物質排出量	(t)	4.8						

(国内のみ)

製品含有化学物質管理

メイコーでは、「環境行動指針」に基づき、RoHS指令など法規制で禁止されている有害物質が製品に含まれないよう、化学物質管理規定で禁止物質を定め、厳しく管理しています。お取引先様より不使用保証書および分析報告書などの環境データをいただき、お客様からの調査要望に対して適切に伝達できるよう努めています。

●製品含有化学物質管理システム



製品含有化学物質規制

- ※RoHS指令：EUによる電子・電気機器における特定有害物質の使用制限
- ※ELV指令：EUで施行された、廃棄自動車の環境に与える負荷を低減するための指令
- ※REACH規制：EUにおける人の健康や環境の保護のための法律

現場の声

先端基板センター
環境保全課
關喜之



先端基板センター廃水処理設備では、生産工程より多種多様な、廃水が排出されます。

排出された廃水に化学物質を添加し、適性な管理を行い環境負荷低減に努めております。

また、近年では廃棄物・有価物の外部受け入れが厳しい状況になっており、この事から廃棄物の削減・リサイクルの推進を図り、環境保全に貢献出来る様努めます。

今後も、環境方針を遵守し業務を進めて行こうと思います。

TOPICS

メイコーソーラーパーク福島 第2発電所の稼働

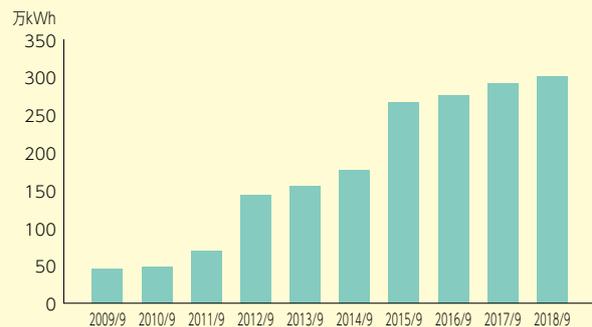
福島県広野町にある福島工場では、東日本大震災により敷地内に残っていた遊休地を利用し、2015年6月より「メイコーソーラーパーク福島」で太陽光発電を開始しました。この発電所の稼働により、福島県と広野町が進めている再生可能エネルギーの普及活動と、持続可能な社会の実現に貢献しています。

2017年から第2発電所が増設され、発電能力は3MW(メガワット)で、年間の発電量は320万kWhとなります。一般家庭の使用量に換算して約880世帯分に相当します。これは、広野町の総世帯数の3分の1以上をカバーする電力源となり、地元福島の復興・発展のみならず、持続可能な社会への実現に貢献しています。今後は発電した電力を自社施設内での利用へ推進してまいります。

●メイコーソーラーパーク福島 概要

設置面積	41,454㎡
パネル数	11,788枚
発電容量	3,026KW
想定年間発電量	3,200MWh (一般家庭約880世帯分の消費電力)
発電開始日	2015年6月10

●太陽光による発電量



メイコーソーラーパーク福島

マネジメント報告

MANAGEMENT REPORT

業務の適正かつ効率的な遂行を確保するため、
監査および内部統制が適切に機能する体制を整え
経営の透明性を高めるとともに、ステークホルダーから
信頼されるマネジメント体制を整えています。

コーポレートガバナンス

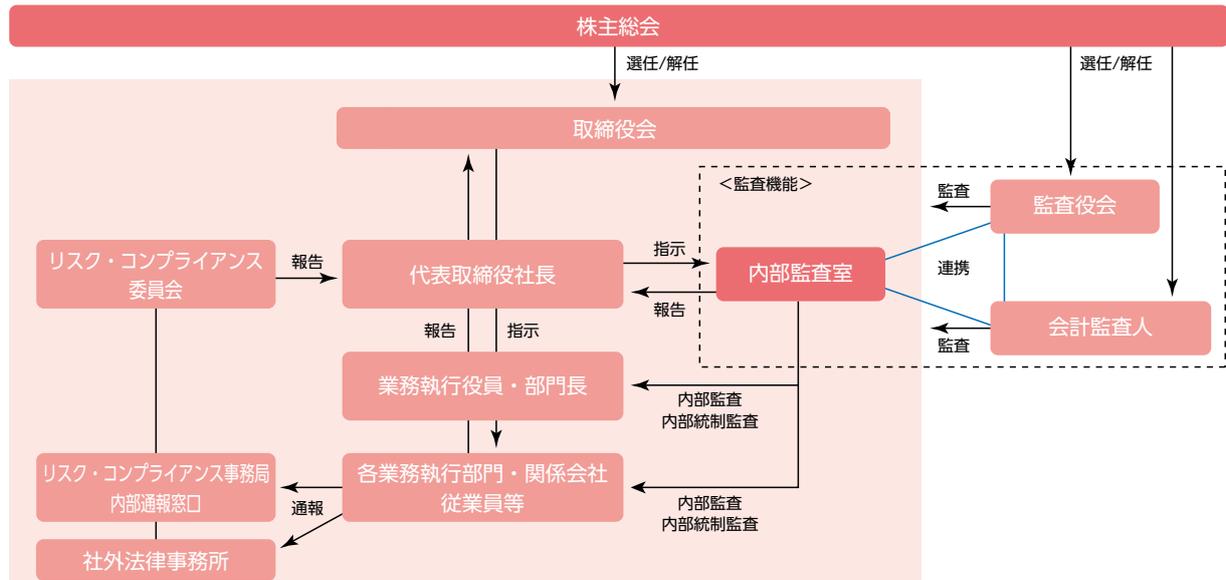
コーポレートガバナンス体制

当社は監査役会設置会社であり、取締役会、監査役会、会計監査人の各機関を置いています。取締役と監査役は、当社と特別な利害関係がなく独立性の高

い社外取締役および社外監査役を招聘することにより、経営に対する監査・監督機能を強化しています。

取締役会は8名の取締役で構成され、そのうち3名は社外取締役です。また、監査役3名のうち2名が社外監査役です。(2020年6月24日現在)

● 当社におけるコーポレートガバナンス体制



取締役就任メッセージ



社外取締役
西山 洋介

2019年6月の株主総会で選任いただき、社外取締役として職務を遂行させていただいております。昨今、コーポレート・ガバナンスの確立が企業の必須条件となる中、微力ながら当職のものづくり、技術、経営に関わる長年の経験を基に株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先様など当社に関わるステークホルダーの皆様の利益の為、企業価値をより一層高めるべく独立社外取締役として、積極的、客観的に意見や提案をしております。

我々を取り巻く環境の変化は常にダイナミックであり、新型コロナウイルスの如く、時には想像をはるかに超える激変に見舞われます。このような中であっても、当社において成長の根幹を成す「生産性のたゆまぬ改善」、そして、「競争力の最大化」と、逆風の中にあっても最も重要である「リスクの最小化」を常に念頭に置き、より良き会社を目指し、一所懸命努力して参ります。今後ともご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

内部統制

2019年の主な活動実績

- 金融商品取引法(J-SOX)に基づく、内部統制の仕組みの更新と評価
(統制対象拠点として、中国子会社、ベトナム子会社、アメリカ子会社を含む)
- 内部監査部門による監査の実施及び是正

今後の計画

- 金融商品取引法に基づく内部統制の評価
- 内部監査の実施及び是正
- 内部統制の有効性を確保する為の監査役、会計監査人及び内部監査部門との適切な連携

メイコーにおける企業統治の体制は、経営を公正におこない、またその内容を極力透明にするため、社外取締役のほか、経営監視機能である監査役、会計監査人および内部監査部門を設け、各々連携をとりながら、コーポレート・ガバナンスの構築に取り組んでいます。内部統制は企業統治の中で、経営効率向上および企業活動の正当性確保のために不可欠な要素であり、その有効性を評価し次の経営改善に繋げることは社会的責任を全うすべき企業の使命であるとの認識のもと、メイコーグループとしてこの活動を推進しています

内部統制システム

会社法および会社法施行規則に基づき、業務の適正を確保するための体制(内部統制システムに関する基本方針)について、取締役会にて以下の事項を決議し、整備しています。

- 2020年度「内部統制システム構築の基本方針」
- 1. メイコーグループのコンプライアンスを確保するための体制
- 2. 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- 3. メイコーグループのリスク管理に関する体制
- 4. メイコーグループの取締役による効率的な職務の執行を確保するための体制
- 5. メイコーグループにおける業務の適正を確保するための体制
- 6. 監査役職務を補助すべき補助使用人に関する体制
- 7. 監査役への報告に関する体制
- 8. 監査役監査の実効性を確保するための体制

財務報告に関わる内部統制

メイコーでは、「内部統制システムに関する基本方針」を踏まえ、金融庁内部統制実施基準などに従い、自社の評価方針・手続・方法、評価体制、評価範囲、評価スケジュール、評価の記録・保存などに関する方針・計画を策定するとともに、経営者主導による評価体制を定めています。この方針・計画に沿って、2018年度に引き続き2019年度においても連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす全社的な内部統制(決算・財務報告プロセスを含む)の有効性を評価しました。その結果に基づき、2019年度の内部統制報告書においては、「当社の財務報告に関わる内部統制は有効である」と評価し、監査法人の適正意見をいただきました。

● 2019年度のメイコーグループ内部統制



コンプライアンス活動

2019年の主な活動実績

- コンプライアンスメールマガジンの毎月配信
- コンプライアンスポスターの掲示
- コンプライアンス意識調査の実施

今後の活動

- 2020年6月施行「パワハラ防止法」への対応
- 管理職・リーダーのためのハラスメント教育の実施
- コンプライアンスハンドブックの改正

メイコーグループでは、コンプライアンスを経営における重要な課題の一つと位置づけ、法令を遵守し、社会規範や企業倫理に則った企業活動を行います。

そのため「メイコーグループ企業行動憲章」および「メイコーグループ行動規範」により活動の基準を示すとともに、「リスク・コンプライアンス管理規程」にて活動の枠組みを定め、コンプライアンスの推進に取り組んでいます。

コンプライアンスポスターの掲示

コンプライアンス意識の浸透の為、コンプライアンスポスターを掲示しています。



コンプライアンスハンドブック

当社では役員・従業員の意識を高めるため、独自のコンプライアンスハンドブックを配布し、同時に社内ホームページにも掲載し、周知を図っています。



コンプライアンスハンドブック

コンプライアンスメールマガジンの配信

コンプライアンスメールマガジンを毎月、配信しています。

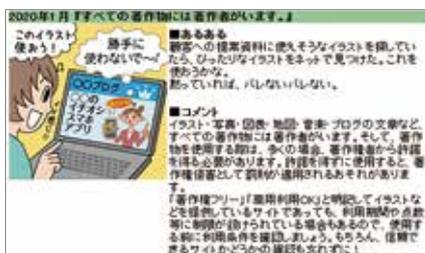


コンプライアンス意識調査の実施

調査会社による「無記名の意識調査」を活用して、「客観的かつ定量的な測定」「潜在化していた課題の発見」を目的として、2019年11月に「コンプライアンス意識調査」を実施いたしました。

コンプライアンス事例の社内HP掲載

コンプライアンス事例を、イラストを交えて毎月社内HPにて紹介しています。



E-ラーニングによるコンプライアンス教育

E-ラーニングにて、職場のハラスメント防止などのコンテンツを展開するなどして、働きやすい職場環境の確保と、社内の意識醸成を図る取り組みを進めています。



反社会的勢力の排除

メイコーグループでは、企業行動憲章にて暴力団を始めとする反社会的勢力と一切の関係を持たないことを掲げ、警察・暴力追放推進センター等の外部専門機関と緊密な連携を図り、毅然とした態度でこれらの排除に努めております。

内部通報制度の設置

内部通報の窓口として、社内窓口と社外窓口(法律事務所)を設置しており、通報等を受けた場合は、通報の精査、事実関係の調査を行い、通報対象事実に該当する行為が行われていることを確認したときは、速やかに是正措置及び再発防止措置が講じられています。また、内部通報規程を定め、通報者及び通報に係る調査に協力した従業員等に不利益な取り扱いを行ってはならない旨を定めており、通報者等に対して不利益な取り扱いや嫌がらせ行為等を行った者がいた場合、あるいは、内部通報に関与する者その他業務上通報等に関する情報を知り得た者が正当な理由なく通報情報を開示した場合は、社内規程に従って懲戒処分を科することができる旨が定められています。

現場の声

人事総務部
総務グループ 次長

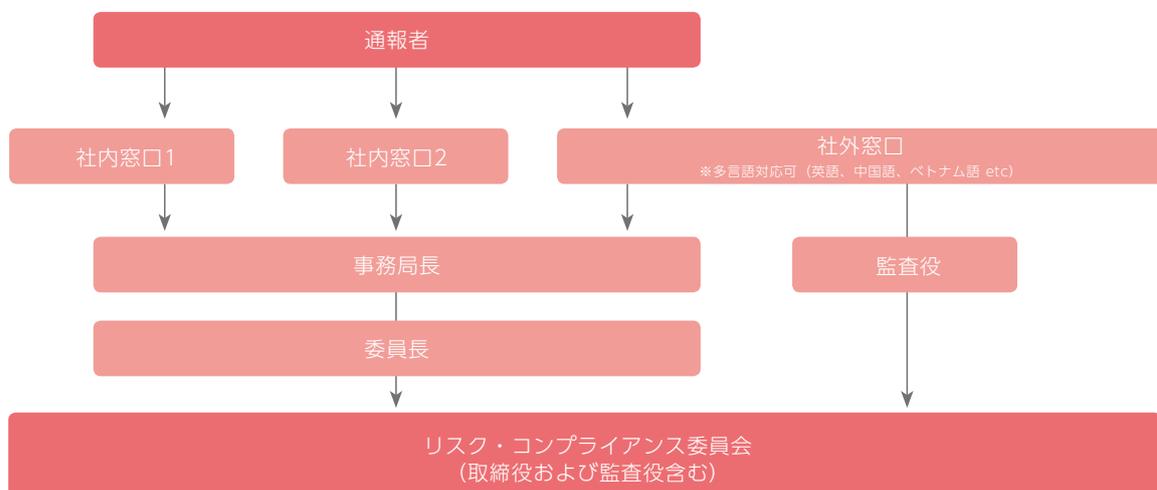
齋藤 直樹



企業を取り巻く環境はますます複雑化・変化しており、こうした時代に企業が生き残るためには、コンプライアンス活動は必要不可欠なものです。メイコーグループでは、中国 ベトナムの大規模生産拠点の他、米国、欧州、ASEAN諸国に営業拠点を設けており、全世界で1万人を超える従業員が働いております。組織全体でコンプライアンスに対応していくためには、全従業員の一人ひとりの意識や行動が大切で、経営理念・企業行動憲章に掲げた精神を、わかりやすく全従業員に伝えるよう心掛けています。

2019年度はこれまでの取り組みに加えて、職場における従業員のコンプライアンス意識や職場環境等を把握し、組織の風土やモラル要因を体系的に測定し、今後のコンプライアンス施策の展開を図る上での指針とするためにコンプライアンス意識調査を実施しました。これからも多様化する社会環境に対応しつつ、コンプライアンス根ざした企業風土の醸成に努めてまいります。

●内部通報フロー



情報セキュリティ

2019年の主な活動実績

- ISO27001 認証の維持

今後の活動

- ISO27001 認証の更新

電子回路基板の製造・販売を事業領域とするメイコーの事業は、お客様からの大切な情報を適切に管理することによりご信頼をいただくことで、成り立っていると考えています。メイコー全体の情報セキュリティに関する取り組みとして、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際認証規格ISO27001の取得を通じ、お客様との情報に対する管理体制を構築し、維持・強化を図っています。

● 情報セキュリティ方針

当社の経営理念に基づき、当社が保有するお客様情報・情報資産を不正アクセス・災害・犯罪・サイバー攻撃などの脅威から保護するため、セキュリティ強化の施策を実施し、また経営陣・従業員の情報セキュリティに対する意識を高めます。上記の情報セキュリティリスクを会社経営に関わるリスクの一つであると認識し、ここに情報セキュリティのポリシーを掲げ当社経営理念とともに経営陣・従業員が一丸となり実践することを宣言します。

1. 情報セキュリティシステムの継続的な改善
2. 情報資産の保護と継続的な管理強化
3. 法令・規範の遵守と社会的責任の遂行
4. 経営陣・従業員の継続的な教育・訓練
5. トラブル発生時の敏速な対応とリスクマネジメントの実施

顧客情報保護

当社情報セキュリティ方針に基づき、お客様の機密情報の保護を徹底しています。

情報セキュリティ教育

メイコーでは、社内ルールの徹底を図るために、e-ラーニングや集合教育による情報セキュリティ教育を毎年実施しています。



情報セキュリティ講習の様子

個人情報保護

個人情報保護に関する法律を遵守し、個人情報の適切な取り扱いをおこなうべく、メイコーでは「個人情報保護規程」を定め、取り扱いに際して厳重な注意を払っています。

情報セキュリティに関する活動

お客様の大切な情報をお預かりする立場にあるメイコーでは、情報セキュリティの重要性を認識して、2006年の初回認証以降、順次適用範囲の拡大を行い、情報管理体制の強化を図っています。

2006年 1月 本社情報システム課において、BS7799-2認証取得

2009年10月 中国武漢工場の対象4部門において認証取得

2010年12月 中国広州工場の対象6部門において認証取得

2016年12月 日本国内 適用範囲拡大

2017年 9月 ベトナム工場の対象3部門において認証取得

2018年11月 日本国内 適用範囲拡大

標的型攻撃メール訓練の実施

情報セキュリティに対する危機意識の強化を図る為、2017年度以降、毎年、国内の電子メール利用者全員を対象に擬似メールを発信し、標的型メール攻撃を疑似体験するための訓練を実施しました。今後も標的型メール訓練を定期的に行っていく予定です。

リスク管理体制

2019年の主な活動実績

- 災害備蓄品の配備・増強
- 安否確認サービス訓練（毎年実施）

今後の計画

- オールリスクに対応するBCPの検討
- BCP資料の更新
- 安否確認サービス訓練（毎年実施）

メイコーでは、常に当社をとりまく環境、災害、品質、情報セキュリティなどの様々なリスクを想定して、リスク管理についての「リスク・コンプライアンス管理規程」および、これに基づく、「BCP基本方針」「緊急時対応マニュアル」を作成し、さらにお客様の生産計画への影響を最小限におさえるべく、当社の各工場においてBCP(Business Continuity Plan)を作成し、緊急時に備えています。なお、情報系のリスクに対しては、本社のほか社外のデータセンターにも常時バックアップを取ることでリスクへの備えとしています。

また、万が一災害や事故等が起きた場合には、代表取締役社長を本部長とする「緊急対策本部」を速やかに設置し、原因の究明、状況の把握や今後の対策等の統括的な対応をおこないリスクへの迅速な対処、再発防止に努める体制を整えています。

危機の種類とリスク要因

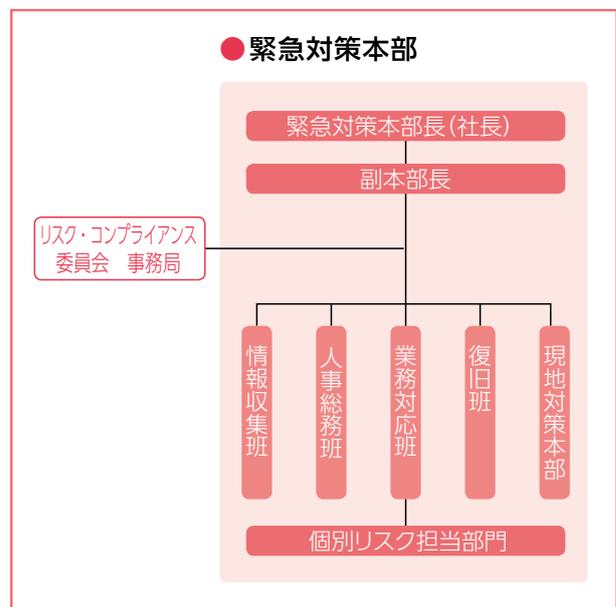
当社をとりまくリスクには、地震・津波などの自然災害のほか、為替変動・マクロ経済状況などの経営環境の変化、海外拠点における政治・経済・インフラ上のカントリーリスク等、様々な要因があります。メイコーでは、これらのリスクに対し各拠点ごとに事前の防止策の検討から事後の復旧に至るまでのBCPを作成し緊急時に備えると共にERM(Enterprise Risk Management)活動を通じてリスクマネジメント体制を強化してまいります。

従業員安否確認システムの導入

震度5弱以上の地震やその他の災害・事故等が発生した際に、該当地域の従業員に対して安否確認や情報伝達をおこなうことを目的として、国内グループ会社の全従業員および海外駐在員を対象とした「安否確認システム」を導入しています。災害発生時に有効活用できるように、定期的に全社的な訓練を実施しています。

グループBCPの構築

メイコーでは様々なリスクに対してビジネスインパクト分析をおこない、目標復旧時間(RTO)、緊急初動体制のシミュレーションを拠点ごとにマニュアル化しています。今後も定期的なBCPの見直しを継続するとともに、確実に遂行するためのシミュレーション訓練、備品の整備、および従業員への啓発などをおこなってまいります。



会社概要 (2020年3月31日現在)

本社所在地 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上5-14-15

生産拠点 ●先端基板センター

〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上5-14-15

●福島工場

〒979-0401 福島県双葉郡広野町大字上北迫字岩沢1-2

●山形工場

〒999-3511 山形県西村山郡河北町谷地字真木250

●石巻工場

〒986-0844 宮城県石巻市重吉町8-5

●マイコー研究開発センター

〒243-0427 神奈川県海老名市杉久保南3-35-6

●中国広州工場(名幸電子(広州南沙)有限公司)

中国・広東省広州市南沙経済技術開発区西部工業区広生路2号

●中国武漢工場(名幸電子(武漢)有限公司)

中国・湖北省武漢市経済技術開発区神龍大道9号

●ベトナム工場(Meiko Electronics Vietnam Co., Ltd.)

Lot LD4, Thach That -Quoc Oai Industrial Zone, Hanoi City

●タンロン工場(Meiko Electronics Thang Long Co., Ltd.)

Lot J1-J2, Thang Long Industrial Park, Vong La Commune, Dong Anh district, Hanoi City

●株式会社マイコーテクノ

〒242-0025 神奈川県大和市代官1-14-1

●Meiko Towada Vietnam Co., Ltd.

Plot C1+C2, Phuc Dien Industrial Zone, Cam Phunc Commune, Cam Giang District, Hai Duong Province, Viet Nam

設立 1975年11月25日

資本金 12,888百万円

役員 (2020年11月1日現在)

代表取締役 社長執行役員	名 屋 佑一郎
取締役 専務執行役員	篠 崎 政 邦
取締役 常務執行役員	松 田 孝 広
取締役 常務執行役員	和 田 純 也
取締役	申 允 浩
取締役	土 屋 奈 生
取締役	西 山 洋 介
取締役	原 田 隆
取締役	小 林 俊 文
常勤監査役	露 木 豊 彦
監査役	佐 藤 孝 幸
監査役	宮 内 弘

従業員数 12,232名(連結)

(国内854名・海外11,378名)

主な事業 電子回路基板等の設計、製造・
内 容 販売およびこれらの付随業務の
電子関連事業

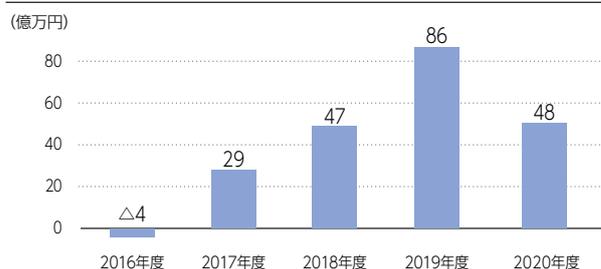
主要な経営指標等の推移

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
売上高 (億円)	952	959	1,085	1,189	1,155
営業利益 (億円)	33	57	74	89	52
経常利益 (億円)	△4	29	47	86	48
当期純利益 (△損失) (億円)	△112	17	43	67	26
1株当たり当期純利益 (△損失) (円)	△429.83	54.14	160.34	257.65	98.81

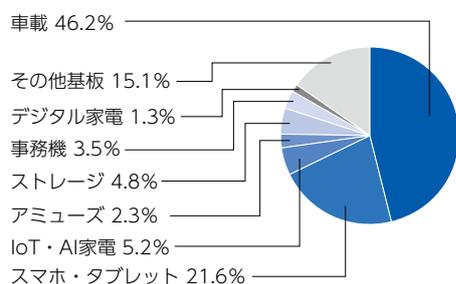
連結売上高の推移



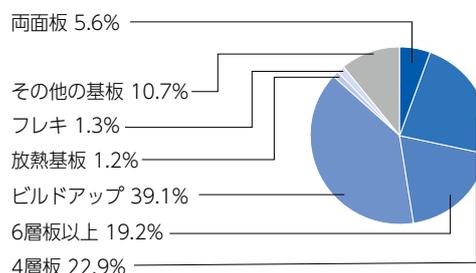
連結経常利益の推移

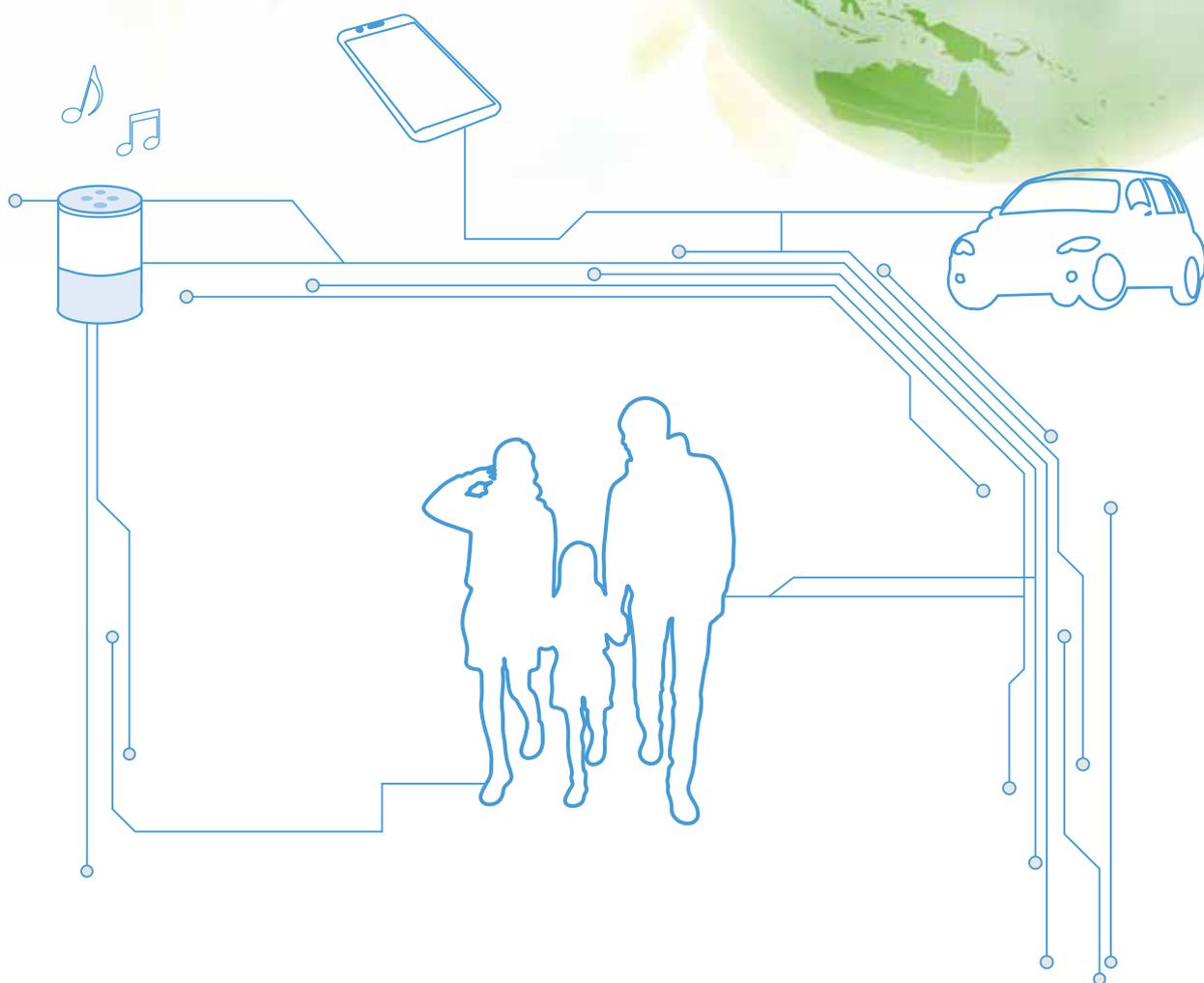


商品別売上構成比(2020年度)



仕様別売上構成比(2020年度)





人と人をつなげる新しいエレクトロニクス

メイコーのプリント基板技術はエレクトロニクスを通して
安心、安全な社会基盤の創造に貢献してまいります。

